

蠟梅 Now

7月に入ると恰も恒例行事のように、集中豪雨と伴う水害、更には同期するように台風の被害が発生している。「令和2年7月豪雨」、気象庁では顕著な災害を起こした自然現象については名称を定めることになっている。災害発生後の応急・復旧活動の円滑化を図るとともに当該災害における経験や貴重な教訓を後世に伝承することを願うためという。

熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨による被害は、12日現在、死者・行方不明者が80人を超えた。総雨量や豪雨の回数は過去の記録を大きく上回った。日照時間も短く所によっては平年の半分を下回り、農作物への影響も出ている。インド洋付近の海面水温の上昇に起因するとみられ、地球温暖化に潜む脅威を疑わない者はいないだろう。

加えてコロナ禍の拡大が留まるところを知らず、日本でも第2波の襲来と思しき兆候が見え始めている。過去に戦争の脅威やウイルス汚染で被った苦い経験を生かして迅速に立ち回り、講じた適切な対策が奏功したフィンランドや台湾には、脅威への備えがあった。そして、その備えや鋭敏さは「環境の必然」から生み出された。

熱望されているワクチンの迅速かつ公平な普及が待たれるが、既に醜い争奪戦が起り始めている。強い必然性がなかった日本はコロナ対策で出遅れ、ポストコロナへの備えもおぼつかない状況にある。脅威の自覚と耐える国民性で一刻も早い収束、終息を願う。

閑話休題。

当法人のシンボル・ツリー蠟梅は2004年、設立の記念に植樹したもので、実生に依る二世が誕生後9年目に入った。事情が許せば、地植えでゆったりと育ててほしいのだが止む無く、筆者宅のバルコニーで鉢植え生活を送ってきた。

樹齢からすれば開花がみられる年頃ではあるようだが、やはり鉢植えの制約からか成長に限界があるようだ。樹高は40cm程度だが、幹にはそれなりの力強さがみられ、頼もしさも感じられるのだが。

これから盛夏に向かうが、コロナ禍の騒然とした環境の下、鬱屈した日々を送っている我々に一条の光明がさすがごとくトピック誕生のきっかけにならないものだろうか。



《発行者》

特定非営利活動法人 未来技術フォーラム神戸

事務局長 大森 信

〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町 4-2-7

TEL&FAX : 050-2014-2293 (IP Phone)

E-mail : info@npo-ftfk.or.jp

URL : <http://www.npo-ftfk.or.jp>